

2020年度 経営学研究科報告

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況 (実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
<p>(1) 中長期目標検討および年次目標の設定</p> <p>① ビジネス・マネジメントのカリキュラムの改訂</p> <p>② 募集要項、戦略の見直し</p> <p>③ 社会人に向けた効果的な広報の確立</p> <p>④ 学部との連携強化によるストレートマスターの確保</p>	<p>① カリキュラム改訂検討準備委員会を設置し、学部と連携して大学院カリキュラム改定の準備をしていたが、Covid-19で学部の学部のカリキュラム改訂が中止となり大学院も延期となった。</p> <p>② 志願者数は昨年並みだったものの、出願時の演習教員の単願を廃止し、複数希望としたこともあり、合格者、入学者ともに昨年を上回った。補欠合格制度、出願時の演習教員を複数希望化を実施した。また、税務だけではなく、ビジネス・マネジメントの入試説明会を実施した。しかしながら、北京第二外国语学院、吉林动画学院に加え、北京語源大学からの志願者確保を目指したものの、Covid-19による影響で募集できなかった。</p> <p>③ 入試広報グループとの連動により、社会人ニーズに合わせたWebsiteでの情報提供、広報の強化は、実施できなかった。また、本研究科の今後のWebsite戦略について本学専任教員に企画を依頼、得意な教員で独自チャンネルでの発信や修了生のインタビューや就職についてなどを発信を計画し、一部実施できた。</p> <p>④ 令和元年度より行っている1年生の保護者への説明会に加え、入学時より会計や税務など国家資格と関係するキャリアの説明、飛び級など早期からの意識向上を目指した説明会を実施した。実績としては、ストレートマスターの学生3名が入学することとなった。</p> <p>⑤ 会計コースの創設による3年間で2つの学位(3科目免除)が取得できるあり方の検討ができなかった。</p>	75%	<p>① Covid-19の影響により学部カリキュラム改訂の中止に伴い大学院も延期となったのは仕方のないことである。</p> <p>② 入学者数20人台にすることができなかったのは、Covid-19の影響により留学生の志願者減によるものと考えられる。一方で、補欠合格制度、出願時の演習教員を複数希望化を実施により、合格者数の減少を抑制できた。また、ビジネス・マネジメントの入試説明会を実施し、積極的な募集戦略の下地ができたことは評価できる。Covid-19の影響による北京語源大学からの志願者確保はできなかったのは仕方のないことといえる。</p> <p>③ 本格的な社会人ニーズに合わせたWebsite募集戦略に着手したのは前進と評価できる。</p> <p>④ 学部1年次生にはオンラインで説明できたが、学部1年次生保護者への説明会がCovid-19により実施できなかったが、実績としては、学部から3名が入学するのは評価できる。</p> <p>⑤ Covid-19の影響により会計コースの創設について議論ができなかった。</p>	<p>平成28年度(2014年度)以降の志願者推移と今年度入学者(別紙参照)</p> <p>志願者数33人 昨年比100%</p> <p>合格者数23人 昨年比130.4%(+3人)</p> <p>入学者19人 昨年比135.7%(+5人)</p> <p>辞退者数4人 昨年比66.7%(-2人)</p> <p>2020年度はCovid-19というこれまで大学行政において経験したことのない環境にたいする対応を考慮している。</p>	<p>① カリキュラム改訂検討準備委員会を設置し、学部と連携して大学院カリキュラム改訂を必ず実施したい。</p> <p>② 補欠合格制度、出願時の演習教員を複数希望化を引き続き、実施したい。また、3つのマネジメントコースの合同入試説明会について対面方式、オンライン方式など組み合わせて実施回数を増やしたい。入試説明会を単に、相談だけではなく、講演会や模擬授業などを組み合わせたもので実施することを検討したい。また、北京語源大学からの志願者確保をハイフレックス授業実施を伝えて、実現させていきたい。</p> <p>③ 社会人ニーズに合わせたWebsiteでの情報提供、広報の強化を実現させたい。また、修了生のインタビューや就職についてなど之情報発信を実現させたい。</p> <p>④ 学部1年次生への説明会において、入学時より会計や税務など国家資格と関係するキャリアの説明、飛び級など早期から意識向上を目指した説明会を実施していきたい。また、学部と連動したカリキュラム改訂により、大学院のカリキュラムを3、4年次から履修できるモデルを提示したい。</p> <p>⑤ 会計コースの創設による3年間で2つの学位(3科目免除)が取得できるあり方については、新大学院構想とともに検討したい。</p>
<p>(2) 授業、集中講義、セミナー等の検討</p>	<p>研究会の開催と外部への公開については、実施できなかった。オンライン授業が、シラバスを大きく変更することなく予定通り実施できた。</p> <p>● 大学院の研究科目については輪読形式の授業はオンラインと方法は変わったものの全く問題なく対面と同様の教育が行えた。</p> <p>● 唯一学内のパソコンで特殊なソフトを使用する授業科目(コンテンツMコース)については、前期は非開講とし、後期対面授業に変更した</p> <p>● 演習科目についてはライブ授業や教員とのチャットを通じたワンツーワン授業も行え、問題なく前期を終えた。特に、通常平日夜、土曜日に授業を行っているが、オンラインであるため、ストレートマスターの多い科目については受講生と相談の上、柔軟な時間割が組めた。教員側の働き方改革にもつながった。</p>	100%	<p>研究会の開催と外部への公開については、Covid-19により、実施できなかったのは外部環境によるもので仕方のないことだと考える。</p> <p>☑ 大学院の授業方式はオンラインと方法は変わったものの全く問題なく対面と同様の教育が行え、院生のアンケート結果も非常に好評であったことは教員の努力の賜物と評価できる。</p> <p>☑ 学内パソコンで特殊なソフトを使用する授業科目は、前期は非開講とし、後期対面授業に変更したのは仕方のないことである。</p> <p>☑ 演習科目はライブ授業で主に実施して問題なかったが、対面に向くものとオンラインでも十分に効果的なものが科目の性質によってあることが認識できた。特に、オンライン授業は、教員、院生双方に非常に有用性が高いことを認識できたことが評価できる。</p>		<p>研究会の開催と外部への公開を感染防止対策を徹底して2021年度は実施したい。</p> <p>● 2021年度は、原則対面方式、一部ハイフレックス授業を導入するが、学生ファーストの教育に務めていきたい。</p> <p>● 唯一学内のパソコンで特殊なソフトを使用する授業科目(コンテンツMコース)については、2021年度は原則対面授業であるので解決可能となる。</p> <p>● 全面对面授業が原則であるが、教員と学生が話し合いにより、オンライン授業を含めたハイフレックス方式を導入するなど柔軟な対応をしたい。</p>

2020年度 経営学研究科報告

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況 (実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
(3)FD実施計画	<p>本学専任教員教授にFDを依頼し、3月6日に「経営学研究科の将来構想」という題目でご講義いただいた。本学100周年に向けた独立研究科を設置をふまえて、本研究科の将来構想について貴重なご提言を賜った。</p>	100%	<p>本学専任教員教授教授によるFDは、「経営学研究科の将来構想」という題目で2021年度に大学院のカリキュラム改訂を実施予定であるので、教員にとって有益な示唆となった。</p>		<p>2021年度は、カリキュラム改訂を題目としたFDを前期中には実施し、カリキュラム改訂の基礎固めを築きたい。</p>
(4)入試実施計画と広報戦略計画の策定	<p>①広報戦略:ア) 12月3コース合同説明会を実施した。 ②入試戦略:ア) 案内パンフレットのペーパーレス化に伴う、動画コンテンツの付加については、一部実施できた、イ) ネット出願の実現化、入試書類のペーパーレス化による受験の容易化を実施できていない。しかしながらオンライン面接は実施できた。 ③修了生の参加によるHP戦略は一部実施できた。</p>	60%	<p>①より打ち出すべきイメージ戦略 ア) 12月に3コース合同説明会をZOOMで実施できたことはこれまでの戦略と異なり、学生を積極的に募集するという前向きな姿勢を示すことになったので、評価できる。 ②入試戦略として ア) 案内パンフレットのペーパーレス化に伴う、動画コンテンツの付加については、一部実施できたことは、積極的な募集戦略の一環として評価できることである、イ) ネット出願の実現化、入試書類のペーパーレス化による受験の容易化については実施できていない。しかしながらオンライン面接が実施できたことは評価できる。 ③修了生の参加によるHP戦略は一部実施できた。</p>	<p>2020年度の大学院説明会の参加人数は以下のとおりである: ①8月30日にZOOMで税務マネジメント対象に24名、 ②12月13日に3コース合同説明会をZOOMで、ビジネス・マネジメントとコンテンツには4名、 税務マネジメント13名。 アンケート調査によるといづれも好評であった。</p>	<p>2021年度は、以下の広報戦略を重点化した。 ①イメージ戦略の強化 ア) 社会人でも学び易い、アクセスし易い場所である点、イ) 不況下、学部卒以上のスキルと学位を獲得でき、就活に有利である点、ウ) 少人数で講師との距離が近く、学習成果が高い点を発信していくこと。 ②入試戦略として ア) 案内パンフレットのペーパーレス化に伴う、動画コンテンツの付加、イ) ネット出願の実現化、入試書類のペーパーレス化による受験の容易化を検討課題としたい。なお、入試自体や事前面談のリモート化は受験者が録画するリスクがあるため、困難であることがわかった。ウ) 専任教員に対する相談をWebsiteでの随時受付(予約制)することを実施することを検討したい。 ③修了生の参加によるHP戦略(※修了生が参加している事による、安心感の惹起) ア) HP上での修了生の活動報告 イ) HP上での修了生へのサービスの紹介(修了後の自主ゼミ、修了生による大学施設を提供したコンテンツ動画の紹介等) ウ) HP上での修了生による相談システムの設置(履修・キャリアアドバイス等) さらに、学部のオープンキャンパスに研究科コーナーを設け、国家資格希望の高校生へのアピールしたい。</p>
(5)教員合同院生交流会の計画	<p>Covid-19により、教員合同院生交流会は実施できなかった。</p>		<p>Covid-19により、教員合同院生交流会は実施できなかったのは仕方のないことである。</p>		<p>大学院の教育的効果の一つに同級生や先輩、後輩との社会的なつながりがあるので、2021年度はオンラインで院生交流会を実施する。</p>
(6)授業満足度2019年度授業評価 4.8(5点満点) 修了時アンケート結果 大いに満足75%、まあ満足25% 2020年度指標としては同等数値を目指す	<p>授業満足度2020年度授業評価 前期4.91(5点満点)、後期4.99であった。</p>	100%	<p>2020年度はCovid-19禍であったけれども、前期後期ともに学生からの満足度は高く高評価であった。Covid-19禍であったからこそ、よりコミュニケーションをとりながら、相互理解を高めながら授業をすすめた結果ではないかと評価できる。</p>		<p>2021年度も対面、ハイフレックス方式で授業を展開することになるが、学生ファーストで対応することにより、2021年度も教育の質向上に努めたい。</p>

2021年度 経営学研究科

PLAN(計画)

P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。

(1)B'sVision2024の方針を踏まえた中長期目標  
検討および年次目標の設定  
①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメント  
コースのカリキュラム改訂  
②社会人に向けた効果的な広報の確立  
③学部との連携強化によるストレートマスターの確保

(2)永久サポート大学を目指し、オンラインによる教  
員合同院生(修了生含)交流会を計画

(3)教学に関する方針を踏まえ、FD研修会を実施

(4)認証評価結果を踏まえ、  
①特定課題の審査基準を検討し、『経営研究科要覧』  
及びHP上において公表  
②適切な教員組織の編成(年齢、職位、専門領域等)  
と運営を検討

(5)授業満足度について2021年度指標としては、  
2020年度授業評価 4.9(5点満点)と同等数値を  
目指す